



ホアン・ロドリゲス・カブリーヨ (Cabrillo) の存在は彼が探索した海域と同じく謎に包まれています。そのほとんどは深い霧の中に隠れていますが、一つだけはっきりしていることは Cabrillo が現在私たちがアメリカ合衆国として知っている土地の西部に足を踏み入れた最初のヨーロッパ人だったことです。彼の探検によってスペインの最初の偉大な探検時代が幕を閉じることになったのです。

Cabrillo が彼の歴史的な航海に出発したのはコロンブスがアメリカ大陸を発見してから 50 年後のことです。彼は 3 隻の船から成る艦隊の司令官として、メキシコから北に広がる未知の海域の探索に出発しました。彼の目的は、スペインの国王とニュースペインの総督のために新しい領土を見つけること、アジア、すなわちスパイス生産地へのルートを発見すること、大西洋と太平洋を結びつけるなどの通路をさぐることで、そして黄金を求めることでした。

Cabrillo の生誕と終息の地がどこであったかについては何も知られていません。16 世紀の歴史家、アントニオ・デ・エラレーはポルトガル人ではなかったかと推測しています。Cabrillo の最初の航海日記は紛失しており、航海の詳細と死亡時の状況については、探検隊がメキシコに戻ってからまとめられたものから、わずかにその概要をうかがい知ることしかできません。

Cabrillo が米大陸に初めて足を踏み入れたのは 1520 年でした。彼が頭角を表したのは、ヘルナン・コータスによる、現在ではメキシコシティとして知られるテノチトゥランと呼ばれていたアスカ・インディアン首都を攻略中、クロスボウの名射手として名を挙げたときです。その後、彼はペドロ・ド・アルバラドに従って、ガテマラの征服を成し遂げました。向上心も強く、教養もあった Cabrillo は、広大な土地の所有者となり、また、造船所を興しました。アルバラドが先住民の一揆によって死んだ後、ニュースペインの総督となったアンドロ・デ・メンドーサは、Cabrillo をサン・サルバドル号、ヴィクトリア号、サン・ミゲル号の 3 隻の司令官に任じました。1542 年 6 月 27 日、アントニオ・デ・メンドーサの後援を受けて、Cabrillo とその艦隊はナビゲードを出港して北に向かい、ニュースペインの海岸を探る遠征に着手したのでした。

囲い込まれた素晴らしい天然の良港

1542 年 9 月 28 日、Cabrillo の艦隊は「囲い込まれた素晴らしい天然の良港」と彼が記録した港に入港しました。海岸に育つセージの茂み（よもぎの一種）があたりの丘や谷を覆い尽くしていました。白銀のような砂浜に降り立った Cabrillo は、ここをサン・ミゲル（現在のサン・ディエゴ）と名付けました。嵐をやり過ぎたため、ここに 6 日間停泊したのち、Cabrillo は再び北に向かって海岸をたどる旅を続けることになりました。その途中で彼が発見したサンタ・カタリナとサン・クレメンテの島々には、Cabrillo は彼の艦隊の船の名にちなんで、サンサルバドル、ヴィクトリアという名前を与えました。辺りを 6 日間にわたって探索したの

ち、探検隊は大陸に接近し、現在はサンペドロ湾として知られる海域に入りました。航海日記には水平線が煙っていたことが記録されています。Cabrillo はここを Bahia de Los Fumes、すなわち「煙の湾」（現在のロサンゼルス）と名付けました。

未解決のなぞ

11 月に入って、探検隊は、現在のチャンネルアイランズの 1 つであり、彼らスペイン人たちが、ボセジョンと名付けた島に水を求めて停泊しました。一つのいい伝えによれば、Cabrillo は、チューマッシュ・インディアンとの戦いの最中、部下を助けようとしてボートから飛び降り、足の骨を折ったとされています。別のいい伝えによると、それ以前にボセジョン島を訪れた際に、肩に近いところで折ったとされています。いずれにせよ、傷の治りが悪く、そのまま死に至ったとされています。1543 年 1 月 3 日、彼の探検隊の目的が未完了のまま Cabrillo はその死を迎えました。

代わって指揮をとることになった主航海士のバートローメ・ファーラーは、Cabrillo の意思を継いで、さらに北進して海岸線を発見することに努めました。どの辺りまで到達したか不明ですが、オレゴン州のログ川に到達したかもしれません。3 月、ヴィクトリア号が暴風の中で見失われました。3 週間後、同艦との再開を果たしたのち、ファーラーとその部下は探検を中止し、ナビゲードに 1543 年 4 月 14 日帰還しました。探検隊はスペインのために 1280 km 以上の海岸線を取得することができました。しかし、目的のスパイスアイランズへの航路、神秘的通路また黄金を発見することはできませんでした。Cabrillo が達成したことは、長い年月にわたり重要性を保つことができるものでした。彼の航海は、陸標（航海上の目標となる地形）、風、潮流の知識を加えることによってそれ以後の探検の安全性を高めたのです。この結果、22 年後の西から東への太平洋横断により、ニュースペインとフィリピン間の貿易ルートが確立し、マニラ・ガリオン船への道を築いたのです。スペインによる探検の時代はやがてコロニアル時代へその道をゆずりました。

クメイイ・インディアン

Cabrillo が北に航海したとき、彼はスペインのために獲得すべき土地にはインディアンと呼ばれる人々が住んでいることを知っていました。彼がこの港に入って行ったとき、数人のクメイイ・インディアン水際に待っていました。彼らは髪を長く伸ばし三つ編みにして、鳥の羽根や貝殻の飾りをつけていました。一部の者はラッコ、アザラシ、または鹿の毛皮をまとっていました。馬にまたがり槍を抱えた男たちの物真似や、よろいと切り裂かれた袖を彼ら自身のからだの上に描くことにより、クメイイ・インディアンたちは、何日か前に上陸した他のスペイン人たちが数多くのインディアンを殺したことを示しました。これに対して、Cabrillo はクメイイ・インディアンに贈り物をして、彼らに危害を与える意図のないことを伝えました。彼は、インディアンたちが豊かな生活を送っていることや、はるか沖合いまで葦のカヌーに乗って漁

に出ることができることを知りました。1857 年の彫版画に示されたようにクメイイ・インディアンたちは彼らの環境の知識をもとに豊かな生活を営んでいました。彼らは、壺、バスケット、アワビやその他の貝殻の飾りを作り、それを近隣の人々と交易していました。

CABRILLO モニュメントの探検

水際の潮だまりに住む生物

海岸沿いの生命のリズムは、潮によってコントロールされています。この岩だらけの潮だまりに住んでいる海洋植物と動物は、打ちつける波、時たま表れる太陽、辺りを乾燥させる風にさらされ、温度と塩分の激しい変化をもたらす厳しい環境条件に適応しています。ここには、カニ、スポンジのようなウミトサカ、バットスター（左図）、海草、アメフラシ、その他の動植物が生きています。

Cabrillo ナショナル・モニュメントは南カリフォルニアで公衆のために開かれている最後の岩だらけの潮だまりの一つを保護しています。この海洋性生息地の存続は、周囲の海と陸の健全性に依存しています。一つの環境における変化は、他方にも影響を及ぼします。汚染された排水、侵食や異物の堆積、油の流出は潮だまりの生物を破滅させます。岩場の潮間地帯に住む動植物の生存は皆さんの行動にも依存しています。どうか、注意深く歩いてください。動植物をその環境から引き離すこと、また潮だまりの一方から反対側に移すことだけでも、それを殺すことになりかねません。潮だまりの中に住むすべての生物は、国の法律によって守られており、彼らの生活を乱したり、捕獲することは禁じられています。

コククジラの観察

毎年、往復 12,000 マイルの回遊期間中、コククジラは、ポイントローマの沖合いを通過していきます。そこからバハ・カリフォルニアのあまたの湾に進み、そこでメスは子供を産みます。春になると、彼らは北に向かいます。ラグーンを最後に離れるのは、子供を連れた母クジラたちです。ここを通過する群れの、これまでの激しい捕獲の結果、1920 年代に至り、その数はわずか数千頭に減っていました。全国からの訴えと、国際条約による保護で彼らの絶滅は避けられました。現在は、25,000 頭以上のクジラがこのルートを回遊しています。クジラの観察に最も適しているのは 1 月から 2 月にかけてです。クジラが呼吸のために水面に現れるときは、4.5 m もの高さまで空気と水を吹き上げます。

海岸に育つセージの茂み

ポイントローマに存する海岸性セージの群落は、この生態型のわずかに生存している保護群落の 1 つです。香りのあるセージ、背丈の低い灌木、多肉性植物、花および草の混じりあったものは哺乳動物、鳥および爬虫類の豊かな住みかとなっています。今日では、南カリフォルニアのこの生息地の 70% が失われています。時代とともに、ディベロッパーたちがこの生息地を様々なハイウェイや道路、邸宅、工業団地、ショッピングモールなどに変えていったのです。サンディエゴ郡の何百種類の動植物は、生存の

危機にさらされています。そのリストは全米で最も長いものです。ポイントローマにある米国海軍、国立公園サービスおよびその他の地主たちは協力してこの海岸性セージの群生地を保護しようとしています。ポイントローマ生態系保護区はハヤブサ、わき腹にしみのあるトカゲ、ハミングバード、南太平洋ガラガラヘビ、ギンギツネなど、様々な動植物の避難場所となっています。

港の防衛

ポイントローマはサンディエゴ湾の入り口に位置している天然の保護障壁を形成しています。砂岩の防護壁が海に向かって突き出しており、この半島は海面から 129 m の高さにそびえ立ち、港と海の両方を見渡せる戦略的な地点を提供しています。1852 年、アメリカ合衆国政府は、この地形の重要性を認めて、この辺りを軍事地域に指定しました。1899 年、国防省は、ここにフォート・ローズクランスを設置し、その後、長期にわたって、一連の砲台を築きました。第一次および第二次世界大戦中には、ポイントローマは沿岸および港の防衛システムの重要な拠点として役目を果たしました。1918 年から 1943 年にかけては陸軍がサーチライトバンカー、火気制御システム（右）および砲台を設置しました。最大の大砲は公園の北西にあるアッシュバーン砲台の 2 門の 16 インチ (40.6cm) 砲であり、それは 1,043 kg の砲弾を 43km の沖合いにまで届かせることができました。軍は、オールドポイントローマ灯台をオーリーブグリーンに塗り、司令塔と無線送受信所としても使用していました。

オールドポイントローマ灯台

オールドポイントローマ灯台は帆船とオイルランプと、これら孤獨な沿岸の明かりを守る男女の古き時代の名残りです。1851 年、米国沿岸調査局はこの土地を航海用の陸標として指定しました。ポイントローマの頂点は海拔 129 m にそびえ、この湾と太平洋の両方を見渡すことができます。その当時としては、この地点は最適の位置と思われたのです。

灯台の建設は 1854 年に完了し、その 1 年後、その当時の技術として最高のフレズネルレンズが据付けられました。1855 年 11 月 15 日の夕暮れ、新任灯台守りが初めてオイルランプに点火しました。天気の良い日には、この明かりは 63 km の彼方から見えたということです。その後、36 年間にわたり、霧の夜を除けば、その光はサンディエゴ港に入港する船人たちを歓迎し続けました。しかし、一見適切な位置であった裏には、重大な欠陥が隠されていました。霧と低雲の垂れこめた夜は、その明かりが役に立たなかったのです。1891 年 3 月 23 日の夜、灯台守りロバート・イズラエルが最後の明かりを点灯しました。灯台を閉めた伊豆ら得ると彼の妻のマリヤおよび彼らの家族は丘の麓に作られた新しい灯台に移ったのです。

見学について

公園の楽しみ方

ビジターセンター Cabrillo ナショナル・モニュメントの見学はビジターセンターから始めることをお勧めします。ここには、この公園、展示物、映画、港のパノラマなどがあり

ます。**Cabrillo** ナショナル・モニュメント財団が運営する書店には、この地域の文化および軍事歴史、動植物、**Cabrillo** やその他の探検家たちに関する書籍を置いています。ビジターセンターは毎日会館しています。

公園の見方 公園は日中だけ開いています。公園への入場は有料です。ビジターセンターから **Cabrillo** の銅像、オールドポイントローマ灯台、およびクジラ観察所までは徒歩で行かれます。潮だまりをご覧になるためには、車で公園の道路を走り、標識に注意してください。遊歩道に沿って、そして見晴台には、動植物と辺りの歴史について説明台が設けられています。公園内には食事の施設はありませんが、公園のベンチでピクニックをなさることはご自由です。

湾に沿った遊歩道 遊歩道（往復 3.2 km）は自然のままのセージの茂みを通り抜け、約 100 m 下がります。この遊歩道は第一次および第二次世界大戦中に港を守った軍事施設の名残りを通過します。遊歩道の途中にはレストルームはありません。また海岸そのものに出ることもできません。

身体障害者の方のために ビジターセンター、映画、展示物、クジラ観察、および港展望台にはすべて身体障害者への心配りがなされています。灯台へのドライブパスは灯台の入口とビジターセンターの両方で販売しています。

詳しい説明 Cabrillo ナショナル・モニュメントは 1913 年にホアン・ロドリゲス・カブリーヨを記念して設立されました。詳しくは、Cabrillo National Monument, 1800 Cabrillo Memorial Drive, San Diego, CA 92106-3601, 電話：619-557-5450 に申し込むか、または、インターネット上の www.nps.gov/cabr でどうぞ。

安全な見学のために

安全に気をつけ、どうか次の注意と規則をお守りください。・

がけ 砂岩壁は非常に危険です。決してエッジに近寄らないでください。突然崩れ落ちることがあります。落ちた場合は死亡事故になりかねません。

潮だまり 岩は滑りやすく、エボシガイは鋭くつがっています。必ず丈夫なノンスリップシューズを着用してください。潮だまりエリアまでは車で近寄り歩かないでください。国の法律により、海洋性生物、貝類、岩を採集することは禁じられています。

遊歩道 侵食を防ぎ、敏感な植物を保護するために、遊歩道の外に出るはなりません。

野生動物 ガラガラヘビや噛みつく恐れのある動物には気をつけてください。見えない個所に手を突っ込んではいけません。野生動物に餌をあたえないでください。

ペット ペット類は家に置いてきてください。ペットを連れてきた場合は、彼らが入れるのは潮だまりエリアだけであり、常に紐でつないでください。ペットを車の中に残しておく、たとえ短時間でも熱射病で死亡することがあります。

盗難 盗難はご旅行中どこでも起きます。貴重品は見えないところに鍵をかけて収納しておくか、身に付けてください。

国法による保護 公園内のあらゆる動植物、貝類、または文化的な事物を移動させたり、収集したり、破壊することは国の法律で禁止されています。

緊急の際は 911 に電話してください。

公園へのみち

本公園はサンディエゴ市内のポイントローマ終点にあります。

・バスの場合：公園へのバスは毎日運行されています。

車の場合：I-5 サウスからカリフォルニア 209（ローズクランズ・ストリート）EXIT で出て、キャノンストリートで右折、カタリーナ・ブルーバードを左折。・I-5 ノースからパシフィック・ハイウェイに入り、バーネットに進み、カリフォルニア 209 で左折。

I-8 をカリフォルニア 209（ローズクランズ・ストリート）EXIT で出て、キャノンストリートで右折、カタリーナ・ブルーバードを左折。

その後は標識どおりで公園に到達します。